

利用者目線に立った施設整備

東京 2020 大会の開催

令和3（2021）年夏、東京 2020 大会が開催されました。大会を通じて、大会競技会場となったスポーツ施設の整備や街中のバリアフリー化などハード面の進展がみられるとともに、スポーツ実施の気運、スポーツを支える人たちの活躍やパラスポーツへの関心の高まりといったソフト面のレガシーも多く芽生えました。



提供：Bob Martin/IOC/OIS/ アフロ



シティキャストの活動の様子



地域のイベントでのボッチャの様子

● 施設整備に障害のある人の意見を反映

誰もが使いやすい施設を整備するためには、利用者目線に立ち、障害のある人の意見を聞くなどコミュニケーションをとりながら進めることが重要です。

都が整備する大会競技会場については、競技会場等に適用さ



改修施設の現地視察の様子



ワークショップの様子

れるバリアフリー基準となる「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」*を踏まえるとともに、障害者団体や学識経験者などから成る「アクセシビリティ・ワークショップ」を設置し、設計段階において車いす使用者席やトイレなど様々な項目について意見をいただきながら整備を進めました。

*東京 2020 大会のアクセシビリティに関する指針として策定されたガイドライン



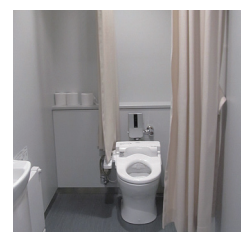
● 東京 2020 大会の競技会場での施設整備の例

■ トイレ

手すり、オストメイト対応設備、介助用ベッドのほか、「同性介助ができない場合のために、異性が一緒に入れるトイレが欲しい」との意見を踏まえ、異性介助用にプライバシーを確保できるようカーテンを設置しています。



〔東京アクアティクスセンター〕



■ 表示サイン

サインの文字等の大きさは、Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインより一回り大きい文字を使用しています。弱視の人でも見やすいフォント（UD デジタル教科書体）やピクトグラムを採用するとともに、文字間隔は意味のまとまりを考慮しています。

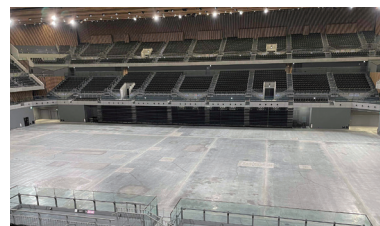


〔有明アリーナ〕



■ 観客席

サイトライン（観客席からの視線）の確保等に留意しつつ、車いす使用者席を分散して配置するとともに、アクセスしやすい箇所に付加アメニティ席を設置しています。



〔有明アリーナ〕

■ カームダウン・クールダウン

「精神障害者などは急に体調が悪くなり休みたくなることもあるので、救護室のような場所を設けてほしい」との意見を踏まえ、カームダウン・クールダウンを設置しています。

※カームダウン・クールダウン

発達障害、知的障害、精神障害のある人などが、外部の音や視線を遮断し気持ちを落ち着かせてパニックを防ぐためのスペース



〔有明アリーナ〕

■ 音声案内

「音声や文字による案内等の設備を、視覚障害者にもわかりやすく利用できるよう整備してほしい」との意見を踏まえ、建物出入口に簡潔な内容の音声案内を設置しています。

※「東京2020大会の都立競技会場整備におけるアクセシビリティに関する東京都の取組について～障害のある方や学識経験者が参画したアクセシビリティ・ワークショップ～」(東京都オリンピック・パラリンピック準備局) より一部引用



〔東京体育館〕

コラム

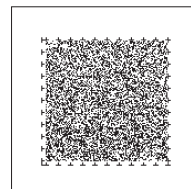
身近な地域のスポーツ施設でも

日野市では、南平体育館の建て替えにあたり、「地域住民に愛され、使い続けていただける体育館」を目指し、スポーツと健康、交流、防災などのテーマでワークショップを開催しました。計4回行われたワークショップには、スポーツ関係団体、障害者団体、自治会、学校関係などから延べ130人が参加し、意見交換を重ねることで、より良い施設の整備につながりました。

ハード面に関する意見で対応等が難しいものについては、スタッフから利用している方々への声かけやサポートなどのソフト面に対応しています。



ワークショップには様々な人が参加



公認パラスポーツ指導員の重要性

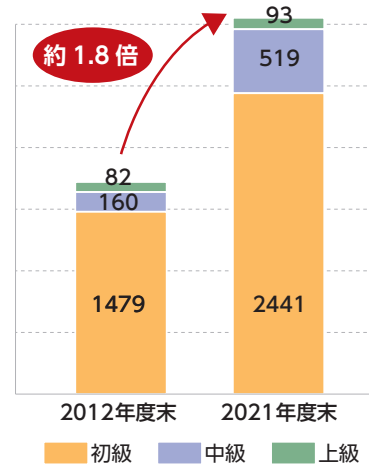
公認パラスポーツ指導員の増加

公認パラスポーツ指導員[※]は、障害のある人へのスポーツ指導や、パラスポーツの導入に携わる資格で、(公財)日本パラスポーツ協会が認定しています。パラスポーツ指導員には、「初級」「中級」「上級」があり、初級資格を取得後、現場での経験と講習会を受講することで、中級・上級にステップアップできます。

東京2020大会開催決定以降、パラスポーツ指導員資格を取得する人は大幅に増加しました。例えば、江東区では、公立スポーツ施設における常勤の全職員に初級パラスポーツ指導員の資格取得を義務づけ、取得を促進しています。

※令和5年4月から「障がい者スポーツ指導員」は「パラスポーツ指導員」に名称変更。以下、「パラスポーツ指導員」という。

都内を活動地としている
パラスポーツ指導員



※ (公財) 日本パラスポーツ協会のホームページより作成

パラスポーツ指導員の役割

パラスポーツ指導員資格は、日本国内のパラスポーツの普及と発展を目指して、パラスポーツの環境を整備する上で専門的な知識、技術を有する人材の養成、資質向上を目的としたものです。

パラスポーツ指導員の思いは、「スポーツの魅力を障害のあるすべての人に知ってもらうこと」であり、そのパートナーとしての活躍が期待されています。

初級、中級、上級資格ごとの担う立場や期待される役割は以下のとおりです。

初級	障害のある人のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員。健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担います。地域の大会や教室など、スポーツ現場におけるサポートを行います。
中級	地域のパラスポーツ振興のリーダーとして、指導現場で十分な知識や経験に基づいた指導をする指導者。地域のスポーツ大会や行事において中心となり、地域のパラスポーツの普及・振興を進める役割を担います。
上級	都道府県におけるリーダーとして、パラスポーツの高度な専門知識を持ち、地域の初級・中級指導員を取りまとめる立場を担います。また、指導員や関係者と一緒に大会やイベントなどの企画運営を行うマネジメント力を持ち、地域のパラスポーツの普及・発展におけるキーパーソンとしての役割を担います。

公認パラスポーツ指導者制度の詳細は (公財) 日本パラスポーツ協会のホームページ (<https://www.parasports.or.jp/leader/index.html>) で確認できます。



施設にパラスポーツ指導員がいるメリット



葛飾区教育委員会事務局
生涯スポーツ課 事業係長
張替 武雄さん

葛飾区では、平成10年度から区主催で初級パラスポーツ指導員養成講習会を実施しております。区で受講した指導員たちが中心となり、東京2020大会を契機として葛飾区ポッチャ協会を立ち上げ、普及に取り組んでいます。

また、体育施設を運営する指定管理者の皆さんに資格取得を推奨しています。きちんとしたカリキュラムを学んで資格を取った職員が施設にいて、障害のある人を受け入れやすい施設になります。資格を取得した職員からは「講習で得た知識や技術が現場での対応に役立っている」と聞いており、区にとってもメリットが大きいと感じています。そして、障害のある人が施設をたくさん利用していただくことで、現場はノウハウが蓄積できると感じています。障害のある人の生の声を聞いている指導員の方々が、一番の理解者です。講習で学んだ知識や技術を現場で実践する環境づくりを進めることで、人材育成につなげていきたいと考えています。

有資格者の声



オール水元スポーツクラブ
中級パラスポーツ指導員
関根 清太郎さん

資格取得のきっかけは、運営する地域スポーツクラブ「オール水元スポーツクラブ」の活動地域に特別支援学校が2校あり、障害のある人も含めた運営につなげるため、有資格者がいた方が良いのではと思い取得しました。

資格取得後、ブラインドサッカーという競技を知り、試合で視覚障害者がプレーしているのを見て、「目が見えるか見えないかの違いだけなんだ」と感動しました。今でもブラインドサッカーの運営のボランティアをしており、東京2020大会では、日本代表チームのお手伝いを通じて多くの選手と知り合うことができました。

運営する地域スポーツクラブでも、トランポリン教室やレクリエーションポッチャ教室を行っていて、多くの障害のある人が参加しており、資格取得に向けて学んだ知識がとても役に立っています。今では、障害がある人もない人も、一緒にスポーツをして笑顔で帰っていくのを見るのが一番うれしく思っています。今後はみんなが気軽にスポーツができる場をもっと充実させていきたいと思っています。

パラスポーツの普及啓発



〔亀戸スポーツセンター（江東区）〕

東京2020大会で様々なパラスポーツが注目され、各スポーツ施設では普及啓発に関する取組が進んでいます。

亀戸スポーツセンターでは、「東京2020大会レガシー継承事業」としてポッチャを誰でも気軽に体験できるように、受付横のロビーに「ミニポッチャ体験スペース」を設けています。



〔大宮前体育館（杉並区）〕

大宮前体育館では、受付横のロビーの一角にSTT（サウンドテーブルテニス）台を設置しています。障害のある人のスポーツをもっと身近に感じてもらうため、施設を利用する多くの人の目に触れる機会を作っています。

競技や道具等の紹介ボードも一緒に設置して理解が深まるよう工夫するとともに、スタッフが積極的に声かけをして、障害の有無に関係なく子供からお年寄りまで体験していただいています。

